



インドネシア出身の介護特定技能職員も着物で参加し、会場を華やかに彩りました。お互いの文化に触れながら、笑顔あふれる交流のひとつとなりました。

愛寿会 たより

秋号
第 264 号
令和 8 年
9 月発行

特集第二回…眠りSCANが変えた現場の夜 特別養護老人ホーム仁生園における導入後の実践と成果

高齢者ケアにおいて、夜間の見守りは利用・入所者の安全と安心を守るうえで欠かせない重要な業務です。

しかし同時に、限られた人員のなかで細やかな対応を求められる夜間介護は、現場スタッフにとって大きな負担でもあります。

特別養護老人ホーム仁生園では、パラマウントベッド社製の睡眠モニタリングシステム「眠りSCAN」を導入し、利用・入所者の睡眠状態を可視化することで、よりきめ細やかなケアの実現に取り組んでいます。

本特集第二回では、実際の運用を通じて見えてきた現場の変化と、入居者・スタッフ双方にもたらされた成果について詳しく紹介します。

夜間介護の課題にどう向き合うか

介護施設における夜間業務では、転倒・離床・体調変化など、さまざまなリスクに即応する必要があります。

従来はスタッフによる定期巡回や声かけ、目視確認を中心とした見守りが行われてきましたが、これだけでは入居者一人ひとりの睡眠状態を継続的に把握することは困難でした。

仁生園でも、夜間の巡回時に「起こしてしまうのではないか」という配慮と、「異変を見逃してはいけない」という緊張感の両立が課題となっていました。

こうした背景のもと、「眠りSCAN」の導入は、単なる機器の導入ではなく、夜間ケアのあり方を見直す大きな一歩となりました。

睡眠データの見える化がもたらした変化

「眠りSCAN」の導入により、入居者の体動、呼吸状態、睡眠・覚醒の傾向がリアルタイムで把握

できるようになりました。

これまで感覚的に捉えていた夜間の様子が、客観的なデータとして記録されることで、スタッフはよりの確な判断を下せるようになっていきます。たとえば、ある利用・入所者は夜間に何度も覚醒しているように見えても、実際には短い体動を繰り返しながら浅い睡眠を維持していることが判明しました。

その結果、巡回のタイミングや声かけの方法を見直し、本人の睡眠を妨げにくいケアへと改善することができました。

また、別の利用・入所者では、普段と異なる呼吸パターンが確認されたことで、早期に体調変化の兆候を把握。医療職との連携により迅速な対応につながったケースもありました。

このように、「眠りSCAN」は単なる見守り機器ではなく、利用・入所者の状態に応じた“根拠あるケア”を支えるツールとして機能しています。

スタッフの負担軽減とケアの質の両立

夜間巡回は、介護スタッフにとって精神的・身体的な負担が大きい業務のひとつです。

とくに限られた人数で複数の入居者を見守る場合、巡回の頻度や優先順位の判断が難しくなることがあります。

仁生園では、「眠りSCAN」の導入により、必要なタイミングで重点的に見守る運用が可能になりました。

全ての居室を同じ間隔で巡回するのではなく、睡眠状態や異変の兆候を踏まえて柔軟に対応することで、スタッフの動きにメリハリが生まれています。



〈特集第二回：眠りSCANが変えた現場の夜特別養護老人ホーム仁生園における導入後の実践と成果〉

これにより、夜間の業務負担が軽減されただけでなく、巡回や記録に割いていた時間を、より直接的なケアや緊急対応に振り向けることができるようになりました。

結果として、スタッフ一人ひとりが落ち着いて業務にあたれる環境づくりにもつながっています。

利用・入所者とご家族の安心につながる取り組み

高齢者ケアにおいては、利用・入所者者本人の安心だけでなく、ご家族の信頼も非常に重要です。

「夜間にきちんと見守ってもらえているのか」

「体調の変化を見逃していないか」といった不安に對して、データに基づく説明ができることは大きな強みとなります。

仁生園では、必要に応じて睡眠状況や夜間の様子を踏まえた説明を行うことで、ご家族への安心感の提供にもつなげています。

目に見えにくい夜間ケアの内容を可視化できる点は、施設と家族のコミュニケーションをより円滑にする効果もあります。

利用・入所者にとつても、不要な巡回や声かけが減ることで、より自然な睡眠環境が保たれやすくなりました。

「見守られている安心感」と「眠りを妨げない配慮」が両立できることは、QOL向上の観点から大きな意義があります。

現場から見た導入効果

仁生園での運用を通じて、特に次のような効果が確認されています。

・睡眠状態の把握精度が向上した

利用・入所者ごとの睡眠傾向を把握しやすくなり、個別性の高いケアにつながった。

・夜間の異変に早期対応できるようになった

体動や呼吸の変化をもとに、必要な場面で迅速に対応できる体制が整った。

・スタッフの負担が軽減された

巡回の効率化により、限られた人員でも質の高い見守りが可能になった。

・利用・入所者とご家族の安心感が高まった

目に見える形でケアの質を伝えられるようになり、信頼関係の向上につながった。

これらの成果は、単に業務の効率化にとどまらず、施設全体のケアの質を底上げするものとなっています。

常務理事園長 竹中洋氏のコメント

仁生園の常務理事園長・竹中洋氏は、導入後の変化について次のように語っています。

「眠りSCANを導入してから、夜間のケアにおける“見えなかった部分”が見えるようになりました。

利用・入所者お一人ひとりの睡眠状態を把握できることで、必要な支援をより適切なタイミングで行えるようになっていきます。

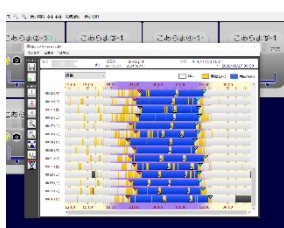
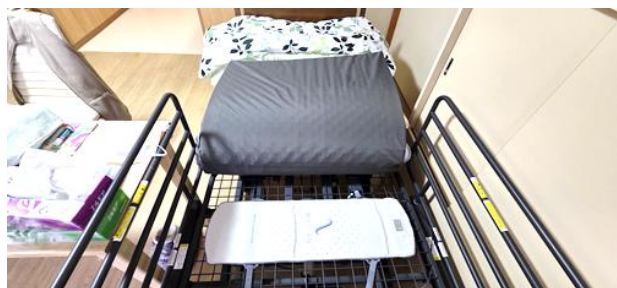
また、スタッフにとつても、感覚に頼るのではなくデータをもとに判断できることは大きな安心につながっています。

今後この仕組みを活かしながら、利用・入所者の皆さまにとつてより快適で安心できる生活環境を整えていきたいと考えています。」

専門家の視点から見る仁生園の意義

介護現場におけるICT活用は、今や単なる業務効率化の手段ではなく、ケアの質を高めるための重要な基盤となっています。

仁生園の取り組みは、その中でも特に「夜間ケアの見える化」という点で大きな示唆を与えています。



睡眠は高齢者の健康維持に深く関わる要素であり、睡眠状態を把握することは体調変化の早期発見にもつながります。

「眠りSCAN」によって得られたデータを、現場の経験と組み合わせ活用することで、より精度の高いケア判断が可能になります。

こうした実践は、今後の介護施設における標準的な取り組みの一つとなる可能性を秘めています。

次回予告

第二回では、仁生園における「眠りSCAN」導入後の変化と、その具体的な効果をご紹介します。

今回の第三回では、さらに視点を広げ、データ活用によるケアプランの最適化や、現場スタッフの声を通じて、導入が施設運営全体にどのような影響を与えているのかを掘り下げていきます。どうぞご期待ください。

第二百四十回理事会

令和八年第一回評議員会が開催されました



令和八年三月十九日（木）に令和八年第二百四十回理事会及び令和八年第一回評議員会が開催されました。

令和八年度事業計画と当初予算の議案等が、審議のうえ承認されました。主な内容をお知らせします。

（一）令和七年度社会福祉法人愛寿会一般会計補正予算について

収入については、下半期の実績に基づき補正予算を編成しました。支出については、当初予算を超える支出や計画外の支出に対応するため、必要な予算を増額し、補正予算を計上しました。資金運用の適正化を図るための補正予算が承認されました。

（二）令和八年度社会福祉法人愛寿会事業運営方針及び事業計画について

各サービス部門において、利用者本位のサービス提供を基本とした各種計画が提案され、承認されました。

（三）令和八年度社会福祉法人愛寿会一般会計収支予算について

令和八年度当初予算（案）は、令和七年度における月次決算の実績等に基づき、支出を最小限に抑えた予算案として作成し、審議のうえ承認されました。計画に基づき、円滑に事業運営を進めてまいります。

（四）定時評議員会の開催について

令和八年六月十八日（木）午後一時三十分から開催。



○ 外国人特定技能者（ミャンマー国）の受入について
○ 厨房での食事提供に関する調理済食材の採用・法人内製化について

（五）障害者支援施設第二仁生園園長選任について
久保倉正二氏を第二仁園長に選任しました。

（六）社会福祉法人愛寿会法人事務局長の選任について
神宮司易氏を法人事務局長に選任しました。

報告事項

○ 外国人特定技能者（ミャンマー国）の受入について



第二百四十一回理事会

令和八年第二回評議員会が開催されました

令和八年五月二十八日（木）に第二百四十一回理事会、令和八年六月十八日（木）に令和八年第二回評議員会が開催され、令和七年度の事業報告及び決算報告がなされ、審議のうえ承認されました。主な内容をお知らせします。

（一）令和七年度社会福祉法人愛寿会事業報告について

令和七年度は、ICT機器の導入によるDX化の推進を進め、見守り支援システムや関連機器を整備しました。

これにより、入所者様の安全性向上、介護の質の向上、業務の効率化を図ることができました。

また、年度を通じて感染症対策、防災訓練、地域との連携行事、季節のイベントなどを実施し、利用者様に安心と楽しさを提供できるよう努めました。さらに、外国人職員の介護福祉士資格取得において三名が合格し、大きな成果を上げました。

（二）令和七年度社会福祉法人愛寿会決算報告について

令和七年度決算報告がなされ、審議のうえ承認・認定されました。

（三）社会福祉法人愛寿会経理規程の一部改正について

経理規程の一部改正が承認されました。



(四) 社会福祉法人愛寿会苦情解決相談委員会設置要綱の一部改正について

苦情解決相談委員会設置要綱の一部改正が承認されました。

(五) 積立金の取崩しについて

積立金の取崩しについて、審議のうえ承認されました。

報告事項

○ 社会福祉法人愛寿会理事長の職務代理者の指名について

小宮山光彦理事長より令和八年四月十五日に常務理事 統括施設長 仁生園園長 竹中洋氏が理事長の職務代理に指名されました。

○ 厨房業務の内製化について

物価・人件費高騰を背景に、令和八年四月から「完全調理品(冷蔵品)」を活用した直営体制へ移行し、安心・安全の向上、個別対応の充実、食の楽しみの拡充を図りながら、BCPも踏まえた継続的な食事提供体制を整備することとしました。



安全な移乗介助と腰痛予防をテーマに職員研修を実施しました



北杜市では、地域リハビリテーション活動支援事業の一環として、高齢者の自立支援や介護予防の充実に取り組んでいます。

このたび、令和八年六月二十六日(金) 十六時〜特別養護老人ホーム仁生園において、職員を対象とした研修「安全な移乗介助の方法と介助者の腰痛対策」を実施しました。

研修では、利用者の残存能力を活かしながら、安全に移乗介助を行うためのポイントや、介助者の身体への負担を軽減する姿勢・動作について学びました。

「持ち上げる介助」ではなく、「利用者の力を引き出す介助」という考え方をもとに、現場で実践しやすい介助方法について理解を深めました。

当日は、峡北シルバークアホームの理学療法士 竹中 悠氏を講師に迎え、立ち上がりや方向転換の支援方法、重心移動の促し方、腰痛予防につながる身体の使い方などについて、分かりやすく説明していただきました。

今回の研修を通して、利用者にとって安心・安全な介助と、職員の身体的負担の軽減につながる支援のあり方を改めて学ぶ機会となりました。

今後も、利用者が安心して生活できる支援と、職員が安全に介助できる環境づくりに努めてまいります。



研修で学んだ「安全な移乗介助」のポイント

今回の研修では、日々の介護現場で役立つ移乗介助の基本について学びました。

特に大切なのは、利用者を無理に持ち上げるのではなく、その人が持っている力を引き出しながら支えることです。

(一) 腰痛予防の基本は「姿勢」から

介助中の腰痛は、利用者の体重だけが原因ではありません。

前かがみになる、身体をひねる、無理に持ち上げるといった動作が重なることで、腰への負担が大きくなります。そのため、足を肩幅程度に開き膝と股関節を使って重心を低くする「安定した姿勢」が大切です。

(二) 「引っ張る介助」ではなく「導く介助」へ

利用者に触れる際は、指先ではなく手のひらでやさしく支えることで、安心感を与えながら動きを導きやすくなります。

介助者が一方的に動かすのではなく、利用者自身の動きを待つことで、残存能力を活かした介助につながります。

(三) 立ち上がりは「上」ではなく「斜め前」

立ち上がりを介助する際は、真上に持ち上げようとするのではなく、重心が「斜め前」に移るよう支援することが重要です。

研修では、「おじぎをしましょう」といった声かけが、自然な立ち上がりを促すうえで効果的であることも紹介されました。

(四) 足の位置を整えることも重要

立ち上がりが難しい場合、筋力だけでなく足の位置が影響していることもあります。

底がしっかり床についているか、足が前に出過ぎていないかを確認し、少し後ろに引くことで立ち上がりやすくなることを学びました。

(五) 安全な介助は、利用者にも介助者にもやさしい

研修では、

- ・ 利用者の動きを待つ
- ・ 重心移動を促す
- ・ 腰ではなく股関節を使う
- ・ 身体をひねらず足で方向転換する

といった基本動作の積み重ねが、安全な介助と腰痛予防につながることを確認しました。

利用者の力を活かした介助は、自立支援につながるだけでなく、介助者の身体的負担の軽減にもつながります。

今後も、こうした学びを日々の支援に活かしていきます。



小荒間地域の防災を考える会 令和七年度総会に参加しました

令和八年六月二十三日（火）、小荒間地域の防災を考える会 令和七年度総会に出席させていただきました。

当法人からは、常務理事・仁生園園長 竹中、第二仁生園園長 久保倉、法人事務局長 神宮司、事務企画部長 坂本、防火管理者・事務リーダー 青山の五名が参加しました。

総会では、令和七年度の事業報告、収支決算および会計監査報告、ならびに令和八年度の事業計画および収支予算について審議が行われました。地域の防災力向上に向けた継続的な取り組みと、関係機関・地域住民の皆さまの連携の重要性を改めて感じる機会となりました。

総会後には講演会が開催され、北杜市消防防災課リーダー 深澤朋彦氏より、北杜市洪水ハザードマップ等についてご講義をいただきました。

講演では、

- 気象庁が発表する予報や気象警報
- 新しい防災気象情報
- 令和八年度より変更となる気象警報

情報収集の手段として、北杜市防災情報ポータル、山梨県土砂災害警戒情報システム、山梨県総合河川情報システムなどについて、分かりやすくご説明頂きました。

近年、気象災害は激甚化・頻発化しており、日頃から正確な情報を収集し、早めの避難行動につなげることの大切さを再認識いたしました。

令和八年七月三十日、北杜市より百寿のお祝いを
して頂きました。いっまでも元気に楽しく過ごして
頂けるように、職員一同精一杯お世話をさせて頂き
ます。
お健やかにご長寿を迎えられましたこと、心より
お慶び申し上げます。

百寿のお祝い



北杜市防災情報ポータル



山梨県土砂災害警戒情報システム



山梨県総合河川情報システム

当法人としても、地域の皆さまとともに、防災意識の向上と安全安心なまちづくりに一層努めてまいります。



特別養護老人ホーム仁生園

「二階喫茶にて「野点」を開催しました」

先日、当施設二階の喫茶スペースにて、利用者様を対象に「野点（のだて）」を実施しました。当日は、普段とはひと味違う和の趣あふれる雰囲気の中、心静かに抹茶を味わっていただきました。

また、外国人介護特定技能職員も着物を着用して参加し、会場はより一層華やかであてやかな雰囲気になりました。お互いの文化に触れながら、笑顔あふれる交流のひとつとなりました。





利用者様からは、「お抹茶のほどよい苦みがおいしい」「練り切りが上品な甘さで食べやすい」といったお声も聞かれ、皆様に大変ご好評をいただきました。

和の文化を感じながら、季節を楽しんでいたいただける、心とむ時間となりました。

今後も、利用者様に楽しんでいただけるイベントを企画し、日々の生活に彩りを添えてまいります。



グループホームの良さは、少人数ならではの柔軟さを活かし、外出やレクリエーションを自由に企画・実施できることだと考え、日々活動しております。

しかし今年度は、天候や風の強さ、職員の調整などもあり、なかなかドライブに出かけることができません、特に皆様が楽しみにされている桜の時期のお花見ドライブを実施できなかったことが心残りでした。

そんな中、新緑が深緑へと移り変わる六月、ようやく大泉・清里を経由して野辺山高原へドライブに出かけることができました。

～行ってきました野辺山高原～

グループホーム やすらぎ



道中では、つつじや藤など山の自然に咲く花々を見つけたたびに、利用者の皆様から歓声が上がりました。また、水田に移り変わった田んぼに青々とした稲が広がる景色も、この季節ならではの美しさでした。

三百六十度山々を見渡せるレインボーラインを通過した際には、普段はあまり多くを語られない男性利用者様から「こういう企画がいいんだ」とのお言葉をいただき、職員にとっても大変心に残るひとときとなりました。

さらに、広大な畑に野菜が植えられた野辺山の爽やかな景色を楽しみ、牛乳工場の芝生では飲むヨーグルトを味わい、初夏の風を存分に感じる楽しいドライブとなりました。

グループホームこあらま

防災訓練を行いました



毎日暑い日が続いておりますが、こあらまの入居者の皆様は元気に過ごされています。

そのような中、七月二十二日に施設内で防災訓練を実施し、こあらまの入居者の皆様にもご参加いただきました。

今回は、夜間に地震が発生したことを想定した訓練を行いました。夜間は職員一名で対応するため、各居室を順番に回り、お一人ずつ声を掛けて安否確認を行いました。また、ご自身で移動できる方には職員の指示に従ってフロアへ避難していただき、付き添いが必要な方には職員が同行し、避難誘導を行いました。

入居者の皆様は落ち着いて職員の指示に従ってくださり、スムーズに避難することができました。

しかし、実際の災害時にはさまざまな状況が想定されるため、職員間でも避難経路や防災用品の保管場所、防火設備の設置場所などを改めて確認しました。防災頭巾についても、ご自身で着用できる方が想像以上に少なく、日頃からさまざまな事態を想定して備えておくことの大切さを再認識する機会となりました。



また、利用者の皆様からは「これが本当の地震だったら大変よね」「職員の皆さんがいなかったら、どこへ逃げていいかわからないわ」などの声も聞かれました。

これから夏本番を迎えますが、入居者の皆様が体調を崩すことなく元気に過ごしていただけるよう、職員一同、引き続き支援してまいります。



に生園デイサービスセンター

進藤三郎さまより

花の寄付をいただきました

今年も進藤三郎様より、たくさんのお花をご寄付いただきました。

いただいたお花は、中庭およびデイサービス前に飾らせていただいております。

来園された皆様からは、「きれいだね」「元気になるね」と大変ご好評をいただいております。

進藤様、素敵なお花をありがとうございました。



花の苗植えを行いました

六月二日、「花の小道」の吉田社長を講師にお迎えし、花の苗植えを行いました。

今年はインパチエンスを植えました。インパチエンスは、別名「アフリカホウセンカ」とも呼ばれるそうです。吉田社長に植え方を指導いただきながら、参加者それぞれが色の組み合わせを考え、プランターに丁寧に植え付けました。

色鮮やかなお花が、毎朝利用者の皆様を出迎えています。



ギターの音色と歌声に魅せられて

七月二十五日、松野様にご来園いただき、ギターとオカリナのミニコンサートを開催していただきました。ギターの音色にのせてフォークソングや昔懐かしい歌を披露してくださり、利用者の皆様も一緒に歌って楽しまれました。

また、オカリナのやさしい音色に癒やされ、心温まるひとときとなりました。

松野様、楽しい時間をありがとうございました。



第二仁生園

ラザウオーク会食

六月二十四日と七月八日に、甲斐市のラザウオークへ外食に出かけました。

フードコートでは、ちょうどテラス席が空いており、景色を眺めながら食事を楽しめた利用者さんもありました。肉うどん、ラーメン、スパゲッティ、ビッグバーガー、山盛りポテトなど、たくさんメニューの中からじっくり選んで注文される方、「これに決まり！」と即決される方など、それぞれに楽しくランチを満喫しました。

食後のアイスクリームは、もちろん“別腹”。最後まで残さずおいしくいただきました。



山の音楽隊が来園されました

八月二十二日、「横浜学友協会」山の音楽隊の皆さんが来園されました。

毎年楽しみにしている夏の恒例行事、サマーコンサートです。♪情熱大陸、おもちゃの交響曲、日本レコード大賞受賞曲、FIVE（嵐）、女流演歌歌手コレクション♪など、幅広いレパートリーが披露され、四十五分間の演奏は始まりから大盛り上がりでした。



第二仁生園の定番曲「高校三年生」では、会場の皆さんも一緒に楽しみ、最後は「ふるさと」を楽団の伴奏と男性合唱、そして会場の皆さん全員で歌い上げ、感動のうちに終演しました。
「また来年もお会いしましょう」と、別れの挨拶を交わし、温かく和やかな時間となりました。



お心遣いをいただき、
心から感謝申し上げます

(令和 8 年 6 月 1 日～令和 8 年 8 月 31 日)

【物品のご寄附】(順不同)

・坂本 忠征 様



愛寿会のサービスへのご意見・ご要望等が
ございましたら左記までご連絡ください。

仁 生 園 電話 0551 (32) 3340
第二仁生園 電話 0551 (32) 8270

仁生園へ来園の皆様へのお願い

新型コロナウイルス等への感染拡大防止対策をしています。ご不便をおかけ致しますが、ご理解を頂き、厳守していただく様、お願い申し上げます。

◆御用の方はインターホンにて、ご用件をお伝えください。

◆来園者全員のお名前を伺い、検温をします。

◆最少人数で来園ください。

◆体調に少しでも不安がある方は、事前に来園をお控えください。

面会に関するお知らせ

☆正面玄関横にてガラス越しでの面会及び、施設外から「Acute Time」を利用した面会に加え、喫茶いこいでのアクリル板越しの面会を再開いたしました。

◆電話による事前予約が必要です(電話をいただいた日の一週間後から予約を承ります)。

◆来園前の二週間は、ご自宅にて体温を測って下さい。

◆面会時間帯は午前九時半～十一時の間で十五分間です。

◆少人数での面会にご協力ください。

☆仁生園では、ご家族様をお持ちの iPad、iPhone を利用した「テレビ電話形式」の面会が可能ですのでご利用ください。希望される場合は、ご予約ください。

※感染症の状況に応じ、急な面会制限をする場合がございます。お電話でお問い合わせいただくか、当法人のホームページにてご案内しておりますので、ご利用ください。

求 人 募 集



社会福祉法人 愛寿会

福祉総合生活支援センター 仁生園

障害者支援施設 第二仁生園

介護保険サービス			
特別養護老人ホーム仁生園  定員 132 名	仁生園ショートステイセンター  定員 19 名	仁生園デイサービスセンター  定員 25 名	仁生園介護相談センター  定員 100 名
障害福祉サービス			
グループホームやすらぎ・こあらま  定員 9 名 2 ユニット	障害者支援施設第二仁生園  定員 30 名	第二仁生園ショートステイセンター  定員 3 名	第二仁生園相談支援センター 

【募集内容】

1. 介護職員、生活支援員

特別養護老人ホーム・ディサービス・グループホーム・障害者支援施設

給与 愛寿会の規程による(前歴加算あり、有資格者平均年収 430 万円) 賞与年 2 回・処遇改善
 各種社会保険完備 各種手当あり(通勤、住居、扶養、寒冷地、特殊勤務・特殊業務、夜勤勤務他)
 月 164 時間勤務 年間休日 120 日 シフト制・ユニホーム貸与・無料 Wi-Fi 接続可・試用期間あり
 <シフト内容> ●早番 7:00~16:00 内 1 時間休憩 ●日勤 8:00~17:00 内 1 時間休憩
 ●夜勤 17:00~9:00 内 4 時間休憩

2. 看護師(正看、准看)

特別養護老人ホーム・ディサービス・グループホーム・障害者支援施設

給与 愛寿会の規程による(前歴加算あり、平均年収 470 万円) 賞与年 2 回・処遇改善
 各種社会保険完備 各種手当あり(通勤、住居、扶養、寒冷地、特殊勤務・特殊業務、オンコール他)
 月 164 時間勤務 年間休日 120 日 シフト制・ユニホーム貸与・無料 Wi-Fi 接続可・試用期間あり
 <シフト内容> ●早番 7:00~16:00 内 1 時間休憩 ●日勤 8:00~17:00 内 1 時間休憩
 ●遅番 9:00~18:00 内 1 時間休憩

【お電話またはメールにてご相談ください】

連絡先 社会福祉法人 愛寿会 本部事務局 採用担当 統括施設長 竹中まで (平日 8:00~17:00)
 〒408-0031 山梨県北杜市長坂町小荒間菅間 1293 番地
 TEL:0551-32-3340(代表) FAX:0551-32-3546
 URL:<http://www.aijyukai.com>
 E-Mail:jinseien@poem.ocn.ne.jp



Facebook



ホームページ